

応仁の乱と戦国大名

縄文

弥生

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

安土桃山

今日の問い

応仁の乱の後、社会はどのように変わり、だれが力を持つようになったのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 応仁の乱と下剋上

戦乱の世へ

応仁の乱

1467年から11年続いた、京都を中心とした大きな戦乱。

下剋上

身分の低い者が実力で上の者に打ち勝ち、地位をうばうこと。

分国法

戦国大名が自分の領国を治めるために定めた独自の法律。

戦国大名

下剋上の風潮の中で、実力で領国を支配した大名。

室町幕府の8代将軍^{あしかがよしまさ}**足利義政**のころ、将軍のあとつぎをめぐる争いに、守護大名の細川氏と山名氏などの対立が結びつき、1467年に**応仁の乱**が起こった。戦いは京都を中心に11年間続き、京都の町は焼け野原となった。

このころから、身分の低い者が実力で上の者に打ち勝ち、その地位をうばう**下剋上**の風潮が広がった。各地に実力で領国を治める**戦国大名**が現れ、独自の法律である**分国法**を定めて家臣を統制し、城の周りに家臣や商工業者を集めて**城下町**をつくった。こうして、約100年続く**戦国時代**が始まった。

将軍のあとつぎ問題
守護大名の対立

1467年
応仁の乱
11年間続く

京都が
焼け野原に

下剋上の風潮
戦国大名の時代へ

2 自治都市の繁栄

自治都市

堺

貿易で栄え、商人が自治を行った港町(大阪府)。

会合衆

堺で自治を行った有力な商人たち。

町衆

京都で自治を行った裕福な商工業者たち。

祇園祭

応仁の乱で中断し、町衆が復興させた京都の祭り。

貿易や商業で栄えた港町の**堺**(大阪府)や**博多**(福岡県)では、有力な商人たちが自治を行った。堺では、**会合衆**(「かいごうしゅう」とも読む)とよばれる商人たちの話し合いによって、町が運営された。

京都では、**町衆**(「まちしゅう」とも読む)とよばれる裕福な商工業者たちが自治の力を持ち、応仁の乱でいったん中断した**祇園祭**を復興させた。商業の発展を背景に、自治の力を持つ都市が各地に生まれていった。

問いへの答え

8代将軍足利義政のころ、あとつぎ問題と守護大名の対立から応仁の乱が起こり、京都は焼け野原となった。下剋上の風潮が広がると、実力で領国を支配する戦国大名が各地に現れ、分国法を定めて城下町をつくった。また、堺や博多、京都では、会合衆や町衆などの商人たちが自治を行う力を持つようになった。

次は ノート で、下線に語句を書きながら確かめよう →

